

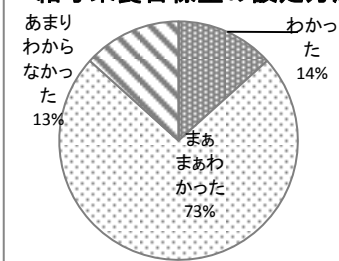
H27 特定給食施設等研修会アンケート結果(2回目)

平成27年11月13日
奈良市保健所保健総務課
回収率100%(参加者15)

1 施設に応じた根拠に基づく給与栄養目標量の設定方法がわかりましたか。

	回答数
わかった	2
まあまあわかった	11
あまりわからなかった	2
わからなかった	0

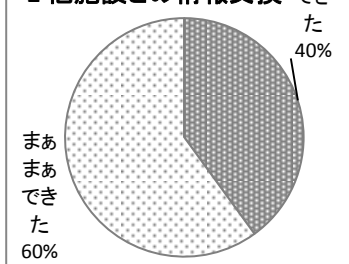
1 給与栄養目標量の設定方法



2 栄養管理に関して他の施設と情報交換ができましたか。

	回答数
できた	6
まあまあできた	9
あまりできなかった	0
できなかった	0

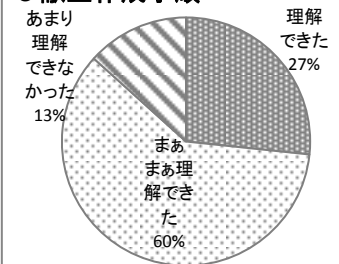
2 他施設との情報交換



3 献立作成の手順を理解できましたか。

	回答数
理解できた	4
まあまあ理解できた	9
あまり理解できなかった	2
理解できなかった	0

3 献立作成手順



4 研修会に参加された感想やご意見などを自由にお書きください。

- ・栄養管理や献立作成について、今回の研修で自分が躓いている点が明確になりました。他園の方々と情報交換ができたので今後の園での栄養管理等に活かしていきたい。
- ・目標量を決めるにあたり、食品構成も見直さなければいけないということがわかり良かった。
- ・もともとソフトに入っていた食品構成の目標量を見直すことなく、エネルギーや栄養価の数値のみで献立作成の基準にしていました。ソフトの目標量が自分の園に合っていないことに今更ながら気づきました。
- ・色々な意見を聞くことができてよかった。特に園医から肥満児の親へのアプローチをしていただくという意見にはとても参考になった。食品構成に関しては色々考える機会を下さったので見直しをしてみようと思う。
- ・勉強になった。献立や栄養面は委託しているので業務的にはしていなから何ともいえない。
- ・荷重平均の算出方法等、はっきりわかっていなかったのが、なんとなく流れはわかったような気がする。園に帰っていろいろな資料を見てみたいと思う。
- ・今まで県の手引きに沿って献立作成をしていた。今回の研修で食品構成の作成等、再確認することができました。きちんと見直して献立作成していければと思う。
- ・今まで栄養価計算の充足率だけを見てきましたが、食品構成を意識する機会ができてよかった。学生の時に学んだことが出てきて、その当時とは変わっている部分もあるかと思うので、勉強していきたいと思う。
- ・見直すことが必要と思ってもできなかったのがよい時間をいただきました。
- ・情報交換がたくさんできた。悩んだり迷うことが同じような内容だった。
- ・各園で給与栄養目標量の設定根拠や見直しについて課題として抱えている点の共感ができた。保育士との連携によるアセスメントが困難な実情があるが「残飯量」や「会議」を通じた情報把握により、各年齢の調整を行っている実態が分かった。食品構成や栄養目標量の改正には至っていないが実情に合わせた提供を実施している。
- ・他園の献立作成・業務について知ることができてよかった。
- ・難しかった。

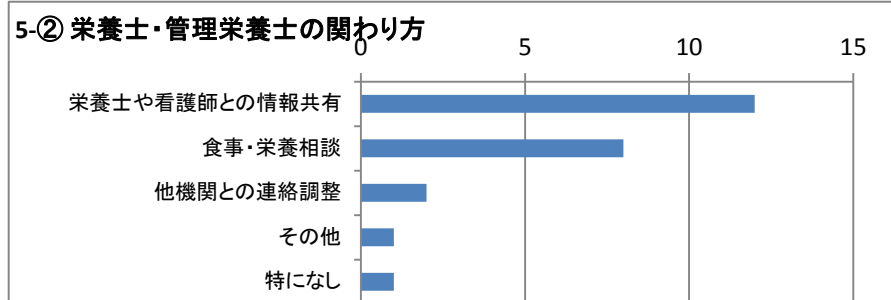
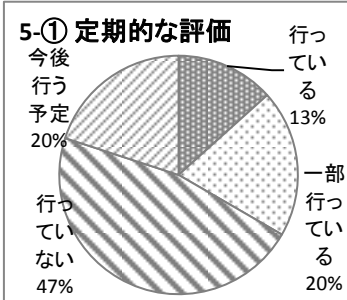
5 現在の状況についてお答えください。

①肥満・やせの園児について、成長曲線に照らし合わせた定期的な評価をおこなっていますか。

	回答数
行っている	2
一部行っている	3
行っていない	7
今後行う予定	3

②アレルギー、肥満、やせなど特別な食事の配慮が必要な園児への栄養士・管理栄養士の現在の関わり方について(複数回答)

	回答数	具体的内容
栄養士や看護師との情報共有	12	アレルギー対応、体格の把握、除去食の摂食状況の確認
食事・栄養相談	8	アレルギー対応、離乳食への移行、食べない児へのアプローチ
他機関との連絡調整	2	委託先との調整、小児科医からの指導
その他	1	園児の様子把握と働きかけ
特になし	1	



③アレルギー、肥満、やせなど個別支援が必要な園児に対し、栄養士・管理栄養士として支援をするにあたり、どういったことが今後必要と思われますか。(自由記載)

- ・アプローチには児や保護者との信頼関係が不可欠であることから、職種連携が必要だと思う。
- ・アレルギーに関して保育園での理解の共有(保育士のアレルギーへの理解)、肥満に関して家庭での食事状況はどうか、園でのおかわりの程度はどうか、やせに関して園や家庭での喫食はどうか、環境による拒食はないかの確認。
- ・アレルギーは保護者との面談を定期的(年2回程度)行うことが、保護者・栄養士ともに必要だと思う。肥満については園医と連携し、園医から保護者に話をさせていただく方がスムーズに支援できると思う。
- ・栄養士自身の知識、情報の把握、そのための保育士・保護者と普段からコミュニケーションをとり、お互いが遠慮なく話せる環境づくり
- ・栄養面からの指導も必要かと思う。
- ・家庭でのことなど生活のいろいろを知ること。
- ・個別で支援が必要だということを園全体で理解し合い、保護者との協力があつた上で支援していかなければいけないと思った。
- ・職員・保護者の方とのつながりが必要
- ・担任保育士に肥満ややせについて報告し、給食時の食事量を配慮してもらうことや成長曲線に照らし合わせた定期的な評価が必要だと思った。
- ・保育士との連携を密にし、児の食事状況(家庭での食事状況、食べる速度、好き嫌い等を含め)を理解し、適切な支援方法を考えていく必要があると思う。
- ・保育士との連携を密にすること、情報収集。
- ・保育士を介した相談の機会の提供や情報把握により保育所への個別相談に関する知識提供が必要。
- ・まだまだ成長が著しいこの乳幼児期において、あまり深刻にならないよう本人も楽しく行動できるようにしていければと思う(肥満・やせ)。保育士の中でも意見の異なりがあるので、園としてまとまとがあるようしっかりとした根拠ある説明をして納得してもらえらるような働きかけが必要(アレルギー児の両親に対しても)。
- ・保育士・園児・保護者とのコミュニケーション
- ・やせ、肥満に対しては個別対応ができていない(保育士が配膳、おかわりの回数も把握できていない)。教室を巡回して園児との関わりをもちながら、保育士・看護師と話し合いながら個別対応を進めていく必要があると思う。

